

イノベーション創出の拠点

KU-CIC

イノベーション創生センター

Kansai University
Center for Innovation &
Creativity

NEWSLETTER

CONTENTS

EXPO2025 大阪・関西万博

大阪ヘルスケアパビリオン

関西大学リボーンチャレンジ

大阪冶金興業株式会社
株式会社ナノスパイク
Cranebio株式会社
株式会社KUREI
株式会社アイ・エレクトロライト
株式会社イノカ

まだある！
関大×万博の最前線テクノロジー

ORAM株式会社
株式会社イノカ
システム理工学部 田實佳郎教授
株式会社nu.
タツタ電線株式会社

News & Topics

イノバイターストーク
特別企画セミナー
起業サポートシリーズ
企業見学会シリーズ
インド工科大学ルールキー校
iHUB DivyaSamparkとの部局間協定を締結
大学発ベンチャー数増加率第1位
INPIT 大阪府知財総合支援窓口〈臨時窓口〉
ビジネスアイデアコンテスト“SFinX2025”

今後のイベントスケジュール
2026年度関西大学GAPプログラム募集開始！
支援ベンチャーの活動報告
編集後記

未来へ100年後の



KANSAI
UNIVERSITY

EXPO2025 大阪・関西万博

大阪
ヘルスケア
パビリオン

関西大学 リボーンチャレンジ

Academia × REBORN
～学理と実測との調和～
2025年8月5日(火)～11日(月・祝)

多くの万博パビリオンのなかでも人気が高かった大阪ヘルスケアパビリオンにて、2025年8月5日(火)～11日(月・祝)、関西大学が実施主体となった「関西大学リボーンチャレンジ」が開催された。“Academia × REBORN～学理と実測との調和～”をテーマに、関西大学発スタートアップ企業を含む9社が出展。関西大学と企業のコラボで磨かれた最先端の研究力と技術力で、「100年後の未来」が描き出された。ここでは、イノベーション創生センター(KUCIC)が支援する6社を紹介します。

大阪冶金興業株式会社
Osaka Yakin Kogyo Co., Ltd.

●大阪冶金興業株式会社
世界に届け!
この技術
次世代加熱技術・ミリ波照射で作る
「人工ルビー製の茶道具」

今回の目玉は、本物のルビーと同じ結晶構造を持つ人工ルビー製の茶道具。日本を訪れる方が強い関心を抱く和の心と「次世代加熱技術・ミリ波照射」の融合を表現した。従来の人工ルビーの製造には、温度2000度で100時間以上かかっていたが、ミリ波照射技術を使えば、1700度でわずか1時間で実現できる。また、極低温に強い先端材料「関大合金シリコロイ(高ケイ素ステンレス鋼)」を活用したカーボンニュートラル社会の実現に向けた技術も紹介した。



関大合金シリコロイを
原材料に3Dプリンターで
製造したオブジェ



世界に届け!
この技術

ナノスパイク
模型

NanoSpike

●株式会社ナノスパイク
物理的殺菌・抗菌技術
「NanoSpike®」

ナノレベルの突起物「NanoSpike®」は、抗菌剤や抗生剤などの化学的作用を用いなくてもそれ自体が物理的に殺菌・抗菌作用を持つ。いま医療現場では、化学物質に耐性をもつ薬剤耐性菌による感染症への対策が課題となっているが、ナノスパイクならその課題も一気に解決する。今回は、ナノレベルのスパイク状突起物を表面に付与したA4の樹脂フィルムを展示。このサイズのフィルムを作る技術が確立できたのは、つい最近のこと。医療機器などの表面に貼付すれば、院内感染などの課題解決にも貢献できる。

Cranebio

●Cranebio株式会社
世界に届け!
この技術
50年後の医療に貢献する
「DNAオリガミナノロボット」

分子レベルの小さなロボットを使い、生体内の細菌やウイルスを早期に発見したり、必要な場所だけに薬を届けて副作用の少ない治療に役立てたりする。これまでの医療概念を覆す可能性を秘める技術が「DNAオリガミナノロボット」。いくつものDNA分子を折り紙のように折り畳み、極小サイズ(髪の毛の太さの1/500程度)の構造体を作る技術だ。展示では、目に見えないナノサイズの世界を体感してもらうために、アニメーションを駆使するなどの工夫が施された。



KUREi
iConTech

世界に届け!
この技術

●株式会社KUREi
食品残渣の天然エキスによる
「凍るを制御する技術」で凍害防止

いまわが国では、高度成長期に建造された高速道路や橋などのコンクリート構造物が崩壊しかねない危機を迎えている。とりわけ寒冷地では、凍結・融解を繰り返すことで劣化する凍害が問題となっている。この課題を、食品残渣から調製した天然エキスを利用して氷結晶を小さくすることで解消しようとするのが「氷結晶制御技術」であり、環境都市工学部 鶴田浩章教授と研究を進めている。会場ではこの技術を使って凍害を防止したコンクリートと、していないコンクリートを比較展示した。本技術は、農業(遅霜対策)、医療(臓器保存)、道路(凍結防止)などへの応用も期待されている。



私は、中国からの留学生で
通訳も担いました。
日本での就職を希望しています。
日中の架け橋になりたいですね。
修士課程1年 劉 博陽さん



お子さんにもわかるように、
専門用語に頼らず、
ムダを省いてシンプルに説明する。
プレゼンの勉強になりました。
修士課程1年 森 竜輝さん

iELECTROLYTE
KANSAI JAPAN

世界に届け!
この技術

●株式会社アイ・エレクトロライト
発火しない
サーキュラーエコノミー電池

モバイル機器や自動車まで、すでにリチウムイオン電池は、私たちのいまの暮らしに欠かせないもののだが、揮発や発火の欠点がある。そこで、不燃性・不揮発性のイオン液体を電解液に用いた新しい「IL(イオン液体)電池」を開発することで、発火リスクを抑えて安全に使用できる電池を実現。飛行機や宇宙ロケットへの搭載を可能にした。さらには、電極を有毒な溶媒を使用しない水系プロセスで製造することや、本来廃棄される海藻由来の天然素材を電池部材に利用することで、環境負荷を低減し、リサイクルしやすい電池の提供を目指す「サーキュラーエコノミー電池」につながる。まさに「未来のエネルギー政策におけるコア技術」とも呼べるIL電池が展示された。



INNOQUA

世界に届け!
この技術

●株式会社イノカ
「チタン」と「環境移送技術®」で
サンゴ礁を効率よく再生

チタンはヒトの生体骨と馴染みやすく、人工関節にも使われている。ヒトの骨とサンゴの骨格は似た性質を持つため、ストレス回避反応で人工的に単離した「ポリブ(サンゴの最小単位)」をチタン上に大量に播くと、接着して増殖する。それを海中ではなく、水槽で行うことができれば、正確なデータがとれる。その水槽環境を作るのがAIやIoTを活用した「環境移送技術®」だ。展示では、海洋の多様な生態系を再現した水槽で育つサンゴの姿が展示された。



100年後の未来を創る 関大発 世界に伝えたい技術

研究者と企業に聞く 千載一遇の舞台“大阪・関西万博”

万博Before—After ～大阪・関西万博がもたらした新たな気づき～



●大阪冶金工業株式会社
※化学生命工学部 西本 明生教授との共同研究

代表取締役社長
寺内 俊太郎氏



私は、50年前の大阪万博を生で体験しました。そこは未来がいっぱい詰まった夢の世界でした。何十回も足を運びましたし、技術者になったのもあそこが原点です。研究者・技術者は、経済合理性なども大切ですが、それよりも果てしない夢を持ち続けて欲しい。ないものを作り、不可能を可能にして世の中に貢献する。まさに縁の下の力もちですね。私たちの会社は、これからもそんなものづくりを大切にしたいと思っています。



●Cranebio株式会社
※化学生命工学部 葛谷 明紀教授の技術を利用

研究員
城戸 柊平氏



万博はもちろん初めて。学会や技術展とは異なり、見せ方や伝え方に工夫が必要でした。対象は専門家ではなく一般の来場者。おそらく医療用の分子レベルのロボットという概念などない方々です。何よりもイメージしてもらうためのビジュアル化に注力し、フルCG動画も作りました。ChatGPTなどを駆使して、体内を駆け巡る分子ロボットキャラを作りましたよ。いつもの研究活動とは違う頭の使い方で、とても新鮮で刺激になりました。



●株式会社アイ・エレクトロライト
※化学生命工学部 石川 正司教授の技術を利用

COO
阿部 一雄氏

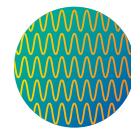


もはや、IL電池は日々の生活から切り離せません。未来には、いま以上に活躍の場も広がり存在価値も高まります。だからこそ安全に、環境負荷も少なく、再生利用や持続性の高いものにしたい。私たちのIL電池が持つ無限の可能性と活躍できる場所の広がりを知ってもらうことが、今回の展示の狙いでした。みなさんにとって電池は馴染みの深いもの。今回の展示用に作ったキャラクター「IL電池兄弟」が、深海から宇宙までを旅するPR動画も好評でした。



●株式会社ナノスパイク

CTO
伊藤 健氏
(システム理工学部教授)



展示では、ナノスパイクのあるフィルムとないフィルムを並べ、撥水性作用についてデモンストレーションしました。また、フィルムを直接触ってもらい、感触の違いを体感してもらいました。といってもその差はわかりませんよ、ナノレベルの突起ですから。「何が違うの?」と聞かれ、突起の模型を触ってもらいながら説明すると、やっと「へえ〜っ!」となる。当初は数センチ四方のサイズしか作れなかったけれど、ついにA4サイズのフィルムを作るまでになりました。万博に間に合っただけでよかった。そして会社も4月に設立しました。いよいよ社会実装も射程内、皆さんに使ってもらえる日が待ち遠しいです。



●株式会社KUREI
※環境都市工学部 鶴田 浩章教授の技術を利用

代表取締役
河原 秀久氏
(元・化学生命工学部教授)



中国東北部や中央アジア、北アメリカ、北欧・東欧など、世界には日本以上に寒い国がたくさんあります。そうした国々の方からも反響の大きさを実感しました。国内の展示会や技術展では感じられない万博ならではの経験です。この技術はBtoB領域の技術ですが、今回の対象は、基本的には一般の方々。ブース展示やガイド役などの運営を手伝ってくれたコンクリート工学研究室の学生にとっても、ふだんの研究室やフィールドワークでは出会えない貴重な経験になったと思います。



●株式会社イノカ

CTO
上田 正人氏
(化学生命工学部教授)



出展のポイントは、アップサイクルされたチタンの足場です。リサイクルや再生ではなく、元の製品よりも付加価値の高いものに生まれ変わらせます。補助人工心臓にも使われるチタンを成形する際には、大量のチタンの削り屑が発生します。それを圧縮成形した足場では、ポリパを固定しやすくなるんです。万博の場は千載一遇の発表の場で、「夢を語り合える大人の文化祭」でした。とことん付加価値を追求しました。

まだある! 関大 × 万博の最前線テクノロジー

— 興味の芽を育む・社会課題に挑む —

●ORAM株式会社

※元システム理工学部 倉田 純一准教授がCTOを務める



大阪ヘルスケアパビリオン
[リボーンチャレンジ:大阪産業局]
〈6月17日(火)〜23日(月)〉

社会課題に
挑む

「建設建機の遠隔操縦」の実装化

建設工事現場が抱える慢性的な人手不足の解消や、過酷な労働環境の改善等をめざして研究開発が進む「建設建機の遠隔操縦」の実装化を展示。対岸の欧州から1/14スケールモデルの油圧模型等のさまざまな建機(ラジコン)を遠隔操縦することで、インフラ整備に尽力する中小施工業者の未来の働き方として、注目された。



●株式会社イノカ

※化学生命工学部 上田 正人教授がCTOを務める



大阪ヘルスケアパビリオン[リボーンチャレンジ:池田泉州銀行]
〈5月20日(火)〜26日(月)〉

興味の芽を
育む



マングローブ林の
魅力や重要性を
アピール

水槽内に多様性に富んだ環境を再現できる「環境移送技術®」で、潮の満ち引きやそれに伴う生き物たちの暮らしを再現。回復傾向にはあるものの、毎年約1%ずつ減少を続けるマングローブ林の魅力や重要性についてアピールした。

ブルーオーシャン・ドーム

[秘密研究機関イノカのサンゴ礁ラボinEXPO]
〈8月4日(月)〜17日(日)〉

興味の芽を
育む

サンゴ礁の魅力と大切さを知るワークショップ

「海の蘇生」をテーマにしたパビリオンで、市民参加型の研究プログラムを実施。参加者は「共創研究者」となり、重さの異なる数種類の餌をサンゴに与え、その摂餌行動を観察・記録した。この市民参加型実験は、世界でもユニークな取り組みとなった。



●システム理工学部
田實 佳郎教授

社会課題に
挑む

サステナブルフードコート
〈万博会期中〉

今の健康状態を
チェックするクッション

クッションが敷かれた椅子に座れば、呼吸、脈拍を計測し、その日の体調や気分を推測することで、おススメの食事メニューをしてくれる。田實教授が研究開発を進めるウェアラブルデバイス技術を活用したユニークなサービスが提供された。



●株式会社nu.

システム理工学部
田實 佳郎教授と連携



ブルーオーシャン・ドーム
〈4月30日(水)〉

興味の芽を
育む

ハクセンシオマネキの求愛ダンスを疑似体験

「さとうみ命の人の業」のテーマのもと、瀬戸内の豊かな生態系を体感できるプログラム。広島県江田島の希少生物・ハクセンシオマネキの求愛ダンスをAIで解析し、その動きのリズムを映像と音に変換し表現。また自分も求愛ダンスを踊れば、ハクセンシオマネキの身体感覚とシンクロし、自然とテクノロジーの融合を体験できた。



●タツタ電線株式会社

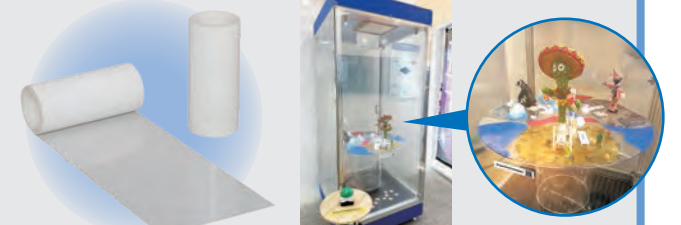


大阪ヘルスケアパビリオン
[リボーンチャレンジ:池田泉州銀行]
〈5月20日(火)〜26日(月)〉

社会課題に
挑む

電磁波シールドフィルムが万博展示用什器に採用

タツタ電線は、モバイル機器の内部回路を保護する目的で使用される電磁波シールドフィルムにおいて、世界で圧倒的なシェアを持つ。今回、どこでもエネルギーを使える社会の実現をめざす株式会社Space Power Technologiesが万博で「ワイヤレス給電システム」を展示するにあたり、展示の安全性を確保するため、マイクロ波漏洩防止対策としてタツタ電線の電磁波シールドフィルムが展示什器の部品として採用された。



関西大学
イノベーション創生センター



Innovator's Talk

イノベーターズトーク

起業はもちろん、就職後にも必要なアントレプレナーシップ(起業マインド)を醸成するイベント。活躍されている若手起業家や企業内で起業した社会人の経験談や想いから学びます。

Vol.37

2025年
5月1日

株式会社DO THROUGH
代表取締役 楠 雄二郎(U.K.)氏



テーマ 説得力が劇的にUPするマインドセット

現役MC・ラジオDJでありプロデューサーとしても活躍する楠(U.K.)氏を招き、「自分軸×しゃべる技術」をテーマに実践的なワークを体験。ラジオDJの曲紹介をモデルにした24秒プレゼンなど、斬新な企画で伝える力の重要性を学びました。



学生の感想

人前で話すことが苦手でしたが「私って実はできるんだ」という気づきがあった。

他人にどう思われるかを気にしていたが、これからは自分軸をしっかり持っていきたい。

Vol.38

2025年
5月16日

株式会社間い読
共同創業者 井上 慎平氏

テーマ 自分の弱さを見つめる NewsPicksパブリッシング創刊編集長が「うつ」になって起業するまでに考えたこと

ITベンチャーでの新規事業の立ち上げ、うつ体験や起業に至るまでの歩み、弱さと向き合う意義について語った井上氏。「苦難を乗り越えるのではなく、自らの弱さを受け入れることが大切」という言葉が胸に響きました。



学生の感想

自分の価値観と一次体験を組み合わせることで理解度、解像度を上げていくということを学んだ。

不自由だからこそ不安が込み上げ、成長できるということに納得した。

Vol.39

2025年
6月16日

株式会社オトバンク
代表取締役会長 上田 渉氏

テーマ 「家族の課題」から事業をつくる 市場0から顧客300万人のオトバンク起業術

「祖父のように目の不自由な人の役に立ちたい」と日本初のオーディobookプラットフォームを立ち上げた上田氏。身近な課題から事業アイデアを生むワークショップと事例ディスカッションで、参加者は発想力と創造力を養いました。



学生の感想

日常生活にある小さな違和感がビジネスに繋がることを学ぶことができた。

人には認知特性があることが分かったので、有効に活用したい。

特別企画 セミナー

2025年6月30日

“東京証券取引所に学ぶ”

起業に関心がある人・ベンチャー企業・起業家は必ず知っておくべき 金融・証券市場とIPO



株式会社大阪取引所 総合管理室
兼 株式会社東京証券取引所 上場推進部 課長(大阪IPOセンター) 田村 満氏

日本取引所グループ(JPX)について、組織の役割やIPOの最新動向を詳しく学びました。田村氏は、起業に関心のある学生や企業の代表取締役に向けて、就職や起業に役立つ上場企業の見方や市場区分の確認を推奨し、実践的なアドバイスを送りました。

学生の感想

IPOは目的ではなく、通過点であることを履き違えてはいけないということが印象に残った。

上場する際の判断基準、また、審査側の不正を防ぐ仕組みもしっかりしている事が分かった。

起業サポートシリーズ

起業に必要な知識・スキルについてセミナーおよびワークショップスタイルで学びます。

2025年7月10日

起業サポートシリーズ2025春学期 ワークショップ

ゼロからはじめる「地域課題」解決ワークショップ ケーススタディ@門真市

カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社
ソーシャルデザイン本部 門真プロジェクトリーダー 組谷 明豊氏

地域課題の捉え方やビジネスにおける課題解決の基本を、ケーススタディを通じて実践的に学ぶワークショップを開催。課題抽出から優先順位の設定、行動計画まで具体事例をもとに体験し、アイデアを生み出す力を身につけました。



学生の感想

地域課題解決へのビジネスの組み立て方から実装までのプロセスを理解することができた。

企画・立案の方法を知ることができ、将来に向けて役に立ちそうだった。

企業見学会シリーズ

先進的な取り組みを行っている企業を訪問し、最先端の技術・アイデアが詰まった施設の見学や、社員との意見交換を通して企業の新規事業について学びます。

vol.15

2025年7月4日
株式会社ワコール



ワコール本社を訪問し、からだのデータ研究や服飾文化の取り組みを見学。創業者の想いに触れ、伝統を守りながら挑戦を続ける姿勢から、社内で挑戦するイントレプレナーシップの大切さを学びました。

学生の感想

様々な実験やデータに基づいた研究がされていることから、ものづくりへの熱意が伝わった。

品質に妥協せず、消費者を想った商品を追求する姿勢に感心した。

インド工科大学ルールキー校 iHUB DivyaSamparkとの 部局間協定を締結



5月27日、関西大学イノベーション創生センターとインド工科大学ルールキー校のイノベーション支援機関であるiHUB DivyaSamparkとの部局間協定締結にかかる調印式を執り行いました。日本国内においてもインドとの交流を産学官が推進する機運が高まる中、今回の協定締結によって、より密接な協力関係が構築されることが期待されます。

イノベーション創生センター主催

ビジネスアイデアコンテスト “SFinX2025”

8月4日、関西大学の研究成果をいかに事業化するかを競うビジネスアイデアコンテスト“SFinX2025”最終審査会を開催しました。3月から約半年をかけた取り組みの集大成として、12チーム51名の関大生が社会課題に挑み、熱のこもったプレゼンを実施。課題を提供した教員と外部審査員、計7名による厳正な審査が行われました。

SFinX2025 最終審査会 結果

最優秀賞

チーム名 ひまわり

プラン名 シコウノタネ
(LLM-Reminderを活用したアプリを考案)



課題技術

技術① 総合情報学部 山西 良典 教授

情報の分析と充実化のための
大規模言語モデルを用いた聞き返しインタラクション



技術② システム理工学部 アイエドゥン エマヌエル 准教授

マルチモーダルAIによる適応型会話支援技術



審査員長 滝沢 泰久教授 関西大学 環境都市工学部

副審査員長 潮 尚之氏 ITPC 代表
上所 克氏 リソナ銀行 法人・プレミア戦略部 部長
竹枝 正樹氏 株式会社Co-learning 代表取締役
宮城 圭介氏 THE SEED Venture Capitalist

イノベーション 創出に向けたセミナー

研究開発型ベンチャー創出への理解を深めるセミナー。最終審査会に向けてアイデアの創出やプレゼンのスキルアップを目的としたワークを行いました。

第1回 5月29日(木)

【テーマ】ビジネスアイデア創出 〈講師〉株式会社Co-learning 代表取締役 竹枝 正樹氏

第2回 6月26日(木)

【テーマ】プレゼンテーションスキルアップ 〈講師〉株式会社Co-learning 代表取締役 竹枝 正樹氏

第3回 7月3日(木)

【テーマ】ベンチャーって何?ベンチャーへの理解を深めよう! 〈講師〉ITPC 代表 潮 尚之氏

TOPICS!

経済産業省が実施する「令和6年度大学発ベンチャー実態等調査」において、関西大学が前年度と比較した

大学発ベンチャー数増加率
第1位となりました。



2025年度 INPIT
大阪府知財総合支援窓口
〈臨時窓口〉in 関西大学を開催!

INPIT大阪府知財総合支援窓口の協力を得て、ベンチャーやスタートアップを対象とした臨時窓口を開設しました。

Day1 8月1日(金) Day2 9月5日(金) Day3 9月25日(木)



受賞	チーム名	プラン名
優秀賞	Socio-Affective AI Lab	職場Well-being支援 AIシステム
	Q-up	農HOW

協賛企業賞		
アイ・エレクトロライト賞	寄り添い隊	KAI
ソフト産業プラザ テクステQS賞	Socio-Affective AI Lab	職場Well-being支援 AIシステム
桃谷順天館賞	ひまわり	シコウノタネ

オーディエンス賞	ひまわり	シコウノタネ
----------	------	--------

その他、IntelligentStyle株式会社より協賛、吹田市より後援をいただきました。



2025 Autumn

イノベーターズトーク Vol.40

2025年10月9日(木) 18:10~19:40



ライツ社

write, right, light

株式会社ライツ社
代表取締役社長 営業責任者
高野 翔氏

イノベーターズトーク Vol.41

2025年12月15日(月) 16:30~18:00



株式会社 一坪茶園
CEO兼CPO **脇 奈津子氏**

起業サポートシリーズ2025秋学期

2025年12月11日(木) 16:30~18:00



カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
IPプロデュース本部 本部長
久保田 加津也氏

企業見学会Vol.16

現在企画進行中!

詳細は、決まり次第SNS・チラシ等でお知らせします。

2026年度関西大学GAPプログラム(KUGAP)募集開始!



関西大学では、本学の研究成果をもとに起業や事業化を目指す研究者に対して支援し、新しい社会的価値の創出や広く社会的課題の解決に寄与することを目的とした、「関西大学GAPプログラム(KUGAP)」の募集を開始します。

本学教職員や大学院生が事業化に向け、研究と事業化との間のギャップを埋めるためのPoC (Proof of Concept:概念実証)の取得、プロトタイプ製作、実証実験、さらには市場調査などを行う際に必要な費用に対し、上限300万円を助成する制度です。

■募集対象:本学専任教育職員・大学院生

■助成額:1件あたり上限300万円

■募集期間:2025年10月1日(水)~2025年11月30日(日)

■助成期間:原則2026年4月~(最大1年間)



▲詳しくはこちら

支援ベンチャーの活動報告

▶株式会社アイ・エレクトロライトが開発した発火しないリチウムイオン電池が、8月2日付の読売新聞、8月9日放送の読売テレビ「関西情報ネットten」で紹介されました。

▶株式会社イノカが、経済産業省が運営するスタートアップ支援プログラム「J-Startup」に選定されました。

▶システム理工学部 田實佳郎教授が開発した技術をもとに事業を展開する株式会社nu.が、アクセラレーションプログラム「Blooming UPs」の最終発表会で優秀賞を受賞しました。



編集後記

今年は観測史上もっとも暑い夏になりました。皆様のなかにも、この酷暑に疲弊し、(私自身を含め)仕事がままならなかったという方が多くいたかと思います。では、この酷暑によって人々の働き方・生産性はどのように変わるのでしょうか? これは経済学でも、重要な研究テーマになっています。例えば、アメリカの特許庁を舞台に特許審査と気温の関係を分析した研究では、気温が高い時ほど審査官の判断が鈍り、特許が受理されやすいことが報告されています。そのほかにも、暑さが労働時間や生産性に影響を及ぼすことを示す研究を挙げると、枚挙に暇がありません。今号で紹介された企業もそうですが、競合他社の判断が鈍りやすい夏場の働き方にこそ、今後の企業成長の鍵があるのかもしれない。(イノベーション創生センター 副センター長 西川浩平)

関西大学 イノベーション創生センター

Kansai University Center for Innovation & Creativity

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL06-6368-1250 FAX06-6368-1237
E-mail:kucic@ml.kandai.jp https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/innovation/index.html

発行日/2025年10月1日 発行/関西大学 イノベーション創生センター

関西大学 イノベーション創生センターは、学問分野の枠組みを越え、教員・学生・企業技術者との対話や交流を実現し、本格的なイノベーション創出の拠点を目指します。

関西大学イノベーション創生センターの『今』をご紹介します!

